

1 学校としての目指す授業

児童が学習課題に対して主体的に取り組み、話し合い活動を通して学びを深め、学びの成就感を味わうことができる課題解決型の授業
--

2 児童の現状

「全国学力・学習状況調査」の分析（6年） 算数：全国と比べてD層は少ない。C層が43％と最大層になっている。 ▲公式の定着がまだ不十分 ▲立式が苦手。解、数量関係の把握 ○地道な作業的な活動経験も、知識理解や思考の基礎として重要な活動である。	国語：全国と比べて、B層が少なく、D層が多い ▲漢字は熟語の解答が苦手傾向にある。 ▲主語と述語の関係を。丁寧に指導する必要あり。 ▲文章読解に時間を要する。内容の大体をつかむ読解力を高める必要あり。
---	---

3 児童の学力・学習状況等の課題（全校）

・ 学びに対する自己肯定感が低い傾向にある。 ・ 学習意欲を喚起するためには、周りの学習環境の工夫や教職員の個別に応じた支援が必要である。 ・ 基礎基本の内容を理解し身に付けるまでに、時間や量を十分に確保する必要がある。 ・ 自分の考えを伝えたり、表したりする表現活動に苦手意識がある。	4 学力向上に関わる学校経営方針 ・ 校内研究を軸に、OJT研修、若手研修等の充実を図り、授業改善を図る。 ・ 基礎基本の定着を図る：家庭学習の取組充実、AI教材の活用、モジュール授業の充実等 ・ 地域教材や地域人材の活用：郷土博物館連携授業や、地域教材を活用した総合的な学習の時間の推進
--	---

5 学校全体の授業改善の視点

①【課題提示の工夫】 実生活と関連付いたり、解決を図りたいといった学習意欲を引き出す学習課題の設定、興味関心を引き出す学習課題提示の工夫 ②【交流活動の工夫】 ペアトークやグループトークなど少人数規模で伝え合う活動の充実、ICTを活用した協働的な学びの充実 ③【学習成果を表現する工夫】 発表相手を意識した学習成果物の作成、ICTを活用した表現活動の充実

6 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	音読や劇化などの表現の発表機会を多く設定する。多くの言葉に触れる機会（言葉集め、読み聞かせ等）を設定する。				具体物を積極的に活用した算数的活動の充実を図る。考えたことを具体物を用いながら、説明する機会を設定する。				直接体験や実験の機会を増やし、興味関心を引き出し、思考につなげる。ICTを活用し、観察などでは写真や動画記録も活用する。		友達と一緒に歌ったり、演奏したりして鑑賞し合う機会を設定し、表現する楽しさを味わわせる。		書画カメラなどを使って指導のポイントや児童の作品の紹介を行い、共有を図る。			様々な部位を意図的に動かしたり、運動量の確保を行ったりすることで、十分に体を動かす心地よさを味わわせる。友だちのよいところを見付け、伝える活動を取り入れる。				自分の考えを友だちに伝え合う活動を多く設定する。挿絵を掲示して、内容理解に活用する。		
中学年	各段落の文章の中心となる内容を確認する場面を設定する。自分の考えをもち、グループ交流を行い、友達の考えと比べて思考を深める活動を設定する（ICT機器を積極的に活用する）		単元の導入で動画資料を用いるなどの工夫を行うことで、調べることへの興味関心を引き出す。 学習のまとめでは自分の言葉で学びを振り返っていく。その際、表現方法を選択できるような、複数の表現方法を提示し、選択肢の幅を広げる。		問題提示を工夫し、実生活と関連付けて、本時のめあてを設定することで、課題解決型な授業を展開する。AI型教材を活用し個々の課題解決の時間を十分に設定する。		身の回りの事象や実生活を想起させるような導入の工夫を行い、課題解決への意欲を高める。写真や動画教材を活用して理解を深める。 問題・予想・実験（観察）・結果・考察・まとめという一連の思考の流れを身に付ける。				teamsを活用し、資料を配布したり、児童の演奏を録画したりして、学習の共有を図る。また友達の良い表現を伝え合う機会を設定する。		スカイメニューやteamsを活用し、資料を配布したり、鑑賞を共同編集で行ったりして学習の共有を図る。			運動遊びから、運動への接続を意識した、単元の計画・場の設定をする。学級全体で運動を楽しめるように、ルールの工夫などを話し合ったり振り返ったりする機会を設定する。 友達の良い動きを見付け伝え合う活動を設定する。				気付く・考える、話し合う・振り返る・生かすという学習の流れを意識する。グループでの交流活動を行い、友達と考えと比べることを意識づけさせ、多角的・多面的に考えられるようにする。		
高学年	・説明文の学習において、文章と図や表などの関係を捉えられるように線などで結ぶ等の工夫をする。 ・ICTの共有機能を用いて、発表相手を意識して文章をまとめる機会を積極的に設ける。		予想から学習計画を立て、解決のために必要な情報を精選することができるようにする。問いに対するまとめを話し合いを通して考えることができるようにする。		興味関心を引き出すことができるよう学習課題提示の工夫し、少人数規模で伝え合う活動設ける。AI型教材を活用し、児童一人一人にあった課題に取り組み基礎基本の定着を図る。		デジタル教科書を活用し、写真や動画教材を活用して理解を深める。				teamsを活用し、資料を配布したり、児童の演奏を録画したりして、学習の共有を図る。また友達の良い表現を伝え合う機会を設定する。		スカイメニューやteamsを活用し、資料を配布したり、鑑賞を共同編集で行ったりして学習の共有を図る。		基礎的な行い方を理解するまで、個に応じた支援の充実を図る。日常生活と関連付けた学習課題を設定し、学習に対する興味関心を引き出す。		運動の楽しさや喜びを味わうことが出来るように学習計画・場の設定をする。動画で自分の動きを振り返り、グループで課題を見つける課題解決型の学習を図る。		デジタル教科書を活用し、英語を聞いたり話したりする活動を通して、英語の語句に慣れ親しませ、目的意識をもった言語活動の充実を図る。		学級や児童の実態に応じて、教材を意図的に選択する。話し合いや議論などを通じて道徳的価値と自分との関わりを相互に表現することで、多面的・多角的に考えさせる。	